GTEC通信vol.101

コミュニカティブな活動を軸にした指導で これからの大学入試に求められる英語力を育成

佐賀県立佐賀西高校

1876年（明治９）年、佐賀変則中学校（旧制）として開校。佐賀県立佐賀中学校（旧制）、同県立佐賀高校などを経て、1963（昭和38）年に現校名に改称。開校以来、「質実剛健・鍛身養志」を建学の精神とする。国公立大への合格者を毎年のように150人以上送り出す県内屈指の進学校である一方、部活動も盛んで、男子バスケットボール部、将棋部などが県内外の大会で活躍している。

基本情報：公立、共学、普通科
規模：１学年約280名
主な進路：国公立大は東京大１名、名古屋大１名、京都大２名、大阪大４名、九州大49名、佐賀大56名をはじめ228名（2016年度入試／既卒生含む）

取り組みのポイント

- **英文の読解とコミュニカティブな活動とが有機的につながるように、教材を工夫。**
- **英語によるコミュニケーション能力を総合的に高められるように、日本人教師とALTとの連携を推進。**
- **目の前の学習と大学入試とがいかに関連するかをこまめに伝えるとともに、GTECで4技能の定着度合いを測定することで、生徒の学習意欲を向上させる。**

取り組みの背景

同校は、聞く・読む・話す・書くの英語４技能を総合的に高める取り組みに以前から力を入れている。2013年度に新課程が導入されてからは、生徒の英語活動を中心にした授業をさらに重視するようになった。

2014年度入学生（現３年生）では、どの単元でも「What do you think?」と生徒に問い掛け、教科書の文章のテーマに関する生徒同士の意見交換やディベート、プレゼンテーションなどを１年生から積極的に行っている。このねらいについて、この学年の英語を１年生から持ち上がりで担当している江口智紀先生は、「単語や文法事項をただ覚えるだけでなく、英語というコミュニケーションツールを使いこなすことに直結する練習を、１年生のうちから段階的に積ませたいと考えました。他者の主張を批判的に捉えて自分の意見を持ち、それを分かりやすく伝える力を身につければ、高度な思考力や判断力、表現力などが必要とされるようになっている大学入試にも、しっかり対応できるようになるはずです。大学入学後、世界中の人たちと交流し、自分の世界を広げることにも役立つでしょう」と語る。

この学年では、２年生になると、生徒が教科書の文章を多角的に読み取り、意見交換などをより効果的に行えるように、１つの単元にワークシートを教科団で何枚も作成・配布し、生徒に取り組ませるようになった。これにより、生き生きと自分の考えを述べる生徒が増えた半面、授業の進度が例年に比べて遅れが出始め、リーディングに充てる時間も少なくせざるを得なくなった。そのためか、進研模試の成績も例年に比べて下がる傾向が見られた。また、教師がワークシートを準備するのに膨大な時間がかかることも課題だった。そこで、コミュニカティブな活動の充実度と効率化とを両立させられるように、２年生の２学期から指導を改めた。

コミュニカティブな活動と リーディングとの有機的な関連を強化

２年生の２学期以降は、OXFORD University Pressから出版されている「Q:Skills for Success」を授業で中心的に用いるようになった。従来の教科書は、週末課題の英文和訳や日本語による説明問題の教材として主に用い、文章のテーマによっては授業でも使用することにした。江口先生とともに2014年度入学生の英語を１年生から受け持つ内田恵美先生は、教材を変更した理由を次のように説明する。「同テキストには、『第一印象をよくするためには何をすべきか』『人はなぜお互いを助けようとするのか』といった、読解する観点が無数に成り立つテーマを扱った文章が多く載っています。そのため、１学期ほどワークシートを作成しなくても、授業で読む英文とコミュニカティブな活動とが有機的につながりやすくなるはずです。英語で考え伝える力を育むという目的に沿って、さまざまな活動を無理なく行うことにもつながると期待しました」。

授業の内容を見てみよう。どの単元でも、冒頭で同テキストの文章を生徒全員が一斉に速読し、おおまかな文意をつかんでから、文章のテーマや筆者の主張などについて生徒同士で検討していく。例えば、生徒が４～５人のグループに分かれてディスカッションを行い、話し合った内容を各グループの代表者がクラス全体に発表するといった具合だ。単元の最後にはワークシート（資料１）を配布し、生徒はここに、文章のテーマに対する自分の見解や筆者の主張への賛否についてまとめ、その内容をプレゼンテーションする。「生徒は一連の活動に取り組む過程で、繰り返しテキストの文章を読むことになります。グループディスカッションの内容などを聞いていると、読んだ英文を“材料”にして自らの主張を展開していると感じることが、回を重ねるごとに多くなっていきました」（江口先生）。

ALTとの効果的な連携で 生徒の表現力を高める

ＡＬＴに加わってもらい、日本人教師とＴＴで指導する機会が増えたことも、２年生の２学期以降の特徴だ。１学期まではディベートを行う週１コマのみだったが、２学期からは可能な限り多くの授業にＡＬＴを迎えるようになった。この変化について、2014年度入学生の英語をやはり３年間持ち上がりで担当する大岩**裕**子先生は、「毎回の授業でコミュニカティブな活動にしっかり取り組めるようになったことで、ＡＬＴの力をどこで借りるべきかが見えやすくなりました。英語母語話者ならではの指導を効果的な場面でお願いできるようになったと思います」と語る。

例えば、同校のクラスは習熟度別に編成されているが、グループディスカッションはどのクラスもＡＬＴを交えて行う。ＡＬＴは、各グループを回って話し合いの内容に対して助言するほか、グループの代表者によるプレゼンテーションに対して、良かった点や課題などを講評。さらに、プレゼンテーションに含まれていたいくつかの表現を具体的に挙げ、文法の誤りを正したり、ニュアンスの差を解説したりする。その際、日本人教師はＡＬＴの解説を踏まえ、生徒の表現をより整った英文に変えて板書する。

成績が中位・上位のクラスでは、折に触れて取り組む和文英訳にも、ＡＬＴに加わってもらう。ＡＬＴが英文としての正確性、日本人教師が日本語と英語との整合性をチェックすることで、生徒のライティング力を高めようというねらいだ。

目の前の学習と進路との関連を伝え 生徒の学習意欲を向上させる

学習に対する生徒の意識づけの仕方にも、さまざまな工夫が見られる。その１つが、１年生から月１回配布している英語科通信（資料２）だ。現在授業で取り組んでいる活動にどのような意義があるのかを伝え、生徒の英語学習のモチベーションが上がるよう仕掛けている。また、２年生の後半からは、授業などで東京大や京都大、九州大といった難関大で近年出題された入試問題を例に、目の前の学習と大学入試との関連性を示すことも多くなった。「英文を批判的に読解できてはじめて解答できる問題や、自分の考えを論理的に述べる必要がある問題が、実際に入試で出題されていることを知れば、生徒は自ら学びに向かうようになると考えています」（江口先生）。

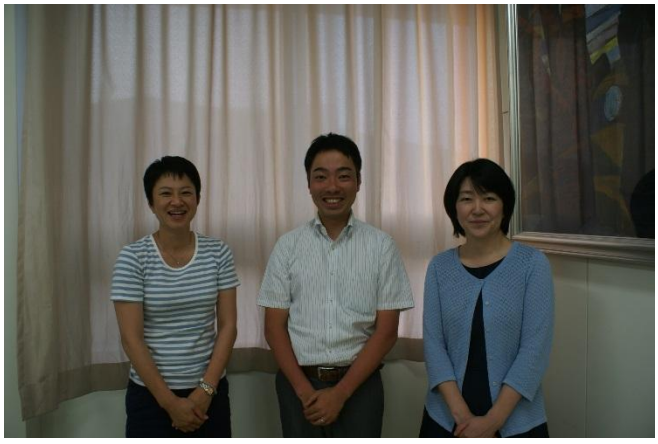
また、授業の難度でも生徒を刺激する。単元の冒頭で行うテキストの速読の制限時間を、簡単に読める生徒がいない程度に短くしたり、グループディスカッションやプレゼンテーションの解説などで、多くの生徒の知らないと考えられる重要な表現をさりげなく示したりするといった具合だ。「授業を通して『自分にはまだ足りない部分がある』と感じれば、生徒は課題を自覚し、それを解決するために机に向かうようになるでしょう。授業での学習内容が大学入試に結びつくことが分かっていれば、なおさらです。課題を自覚し、それを解決するために机に向かうようになれば、学びは何倍も豊かになります」（大岩先生）。

指導内容をさらに充実させるために
4技能の定着度合いをこまめに測定

生徒の英語力を複数の視点から定期的に見取っていることにも、注目したい。進研模試は読解の精度、ＧＴＥＣ for STUDENTS（以下、ＧＴＥＣ）は４技能のスキル・定着度合いを客観的に測るツールと位置づけ、３年間を通して実施している。

ライティングなどの分量が多いＧＴＥＣは、英語による情報処理能力がどの程度速く、かつ正確になっているかをこまめに判断できるように、１・２年生で２回ずつ（７月・12月）、３年生で１回（７月）と、約半年に１回のペースで課し、コミュニカティブな指導の成果検証として活用している。「スコアが伸び悩む生徒が多いスキルがあれば、そのスキルについての指導を見直すなど、ＧＴＥＣの結果を受けて指導内容を調整することもあります」（内田先生）。

また、ＧＴＥＣはスキルの運用力が全国レベルで判定されるため、特に成績上位層の生徒が学習意欲を高める機会にもなるという。「上位層の生徒ほど、自分のスキルがどれくらい通用するのかを試してみたいという気持ちが強いと感じます」（江口先生）。



（左から内田先生、江口先生、大岩先生）

取り組みの成果と今後に向けて

2014年度入学生（現３年生）は、コミュニカティブな活動を軸にした授業によって、思考力や判断力、表現力をしっかり定着させている。ＧＴＥＣでは、２年生12月のスコアが、過年度の３年生７月のスコアを上回っているほどだ（資料３）。進研模試の成績も伸びており、英語によるコミュニケーション能力が総合的に高まっていることがうかがえる。

さらに、生徒の意識も変わった。「英語をただ教科としてだけではなく、自分にとって必要なツールとして捉えられるようになっていると感じます。私が『勉強の調子はどう？』と尋ねたところ、『スピーキングに課題があります』と答える生徒が出てきました」（江口先生）。

３年生の２学期からは大学入試の過去問題演習などが本格化するが、コミュニカティブな活動にも時間の許す限り取り組んでいく。「英語で考える力、英語を用いて伝える力は、大学入試にはもちろん、大学合格後にも生きます。生徒には最後までしっかり身につけさせ、送り出したいと考えています」（内田先生）。

【資料１】授業で用いるワークシート

Q: Skills for Success UNIT5 Why do people help each other?

GOAL SHEET

In this assignment you are going to write about 2 paragraphs.

1st paragraph　Tell the story of when you helped or didn't help a stranger.

2nd paragraph　Next, tell us what you were thinking and feeling before, during, and after the incident.

【Conditions】

※ Your description will include information from Q passage you have already read.

※ Make sure the story flows naturally (First I did this... Then I did this... Finally this happened... On that day... When I did this, then this happened...)

※ Pay close attention to the tense you use (I said... I did... I wanted to... I had been...).

※ You should not use difficult terms.　Listeners are "Your" classmates.

(1st) When I was a fourth grader of the elementary school, there was a man who seemed to get lost. I was at the bus stop on my way home from school. May be it was arround four p.m.

The man had a long nose, blue eyes, long legs, and a blond hair. He looked exactly same as my image of a typical foreigner. As you know, Saga is a countryside. People over 75 years of age account for one-fourth of the population. We seldom see visitors from foreign countries. People here are not used to being talked to by foreign people. Needless to say, they are not used to giving directions to someone in English. The man talked to an elderly woman walking with a dog. "Excuse me, but could you tell me the way to Saga station by bus?" he said. However she replied "I'm sorry. I can't speak English at all." and soon walked away. There was no one else but us. When I look back this episode now, a sence of responsibility arose in myself because of "bystander effect". I wanted to help him somehow, but I was really nervous and scared. Also I was uncertain of my ability to show him which bus to take. Just I was hesitating to talk to him, he suddenly came up and asked me fluently in English. It was really hard for me to show him the way with my poor English, but at last, I managed to make myself understood in English. He said "Thanks to you, I'll be able to be in time for an appointment." I was really happy to hear that. (2nd) Through this experience, I gained confidence in myself. Also my motivation for learning English was improved greatly. I wanted to be a fluent English speaker like him. (324) words

I realized happiness was indeed contagious. Now I'm sure I can give directions to foreign people in English with confidence.

SELF-ASSESSMENT

- Is the punctuation correct? ((YES) / NO)
- Are all words spelled correctly? ((YES) / NO)
- Does the paragraph include vocabulary from the unit? ((YES) / NO)
- Is *because* used correctly to state reasons? Are commas used if necessary? ((YES) / NO)
- Does the paragraph use phrasal verbs from the unit? ((YES) / NO)
- Are they used correctly? ((YES) / NO)
- Do gerunds end in *–ing*? ((YES) / NO)
- Are all gerund subjects followed by a singular verb? ((YES) / NO)

平成２７年度　２年生　英語科通信　December

☆今後の予定

			授業内容			
		行事	朝補(冬季補)	ComⅡ	英表	課題・その他
12月2日	水		構文150 43,44	ガイダンス	GTEC Listening/Writing	
12月3日	木			Q skills Unit2		
12月4日	金			Q skills Unit2		考査やりなおし提出
12月5日	土	土セミ・GTEC				
12月6日	日					
12月7日	月		構文150 45,46	Q skills Unit2	VQ17/Lis	火テスのための学習
12月8日	火	火曜テスト(英)		Q skills Unit2		
12月9日	水				VQ18/Lis	
12月10日	木			Q skills Unit2		
12月11日	金	クラスマッチ				
12月12日	土					
12月13日	日					
12月14日	月		構文150 47,48	Q skills Unit2	VQ19/Lis	長文演習⑧
12月15日	火	火曜テスト(国・化)		Q skills Unit2		
12月16日	水				VQ20/Lis	
12月17日	木	三者面談		Q skills Unit2		
12月18日	金			Q skills Unit2		
12月19日	土	土セミ				
12月20日	日					
12月21日	月	水曜校時、朝補は月曜	構文150 49,50	Q skills Unit2	VQ p67～69/Lis	長文演習⑨
12月22日	火			Q skills Unit2		
12月23日	水	天皇誕生日				
12月24日	木	終業式				
12月25日	金	冬季補習	構文150 51,52			
12月26日	土					
12月27日	日					
12月28日	月	冬季補習	構文150 53,54			長文演習⑩
12月29日	火					
12月30日	水					
12月31日	木					
1月1日	金					
1月2日	土					
1月3日	日					
1月4日	月	冬季補習	文法・語法テスト			文法・語法テストの学習
1月5日	火	冬季補習	構文150 55,56			
1月6日	水	冬季補習	構文150 57,58			
1月7日	木	冬季補習	構文150 59,60			
1月8日	金	始業式				
1月9日	土	県下一斉模試				
1月10日	日	県下一斉模試				
1月11日	月	成人の日				
1月12日	火	火曜テスト(英)				

※予定は変わる可能性が十分あります。

★なぜ英語を学ぶのかという問い

ある英語の公開授業の一場面で、君たちと同じ高校２年生が英語でこう言ったそうです。「我々は受験のためだけに英語を学んでいるのではない。将来グローバルな舞台で活躍するために英語を学んでいるのだ。」みなさんはこれを聞いてどう思いますか。このように**英語学習に関して非常に意識の高い人と、英語学習を大学受験のためだけの手段としてしかとらえていない人の間にはかなり大きなギャップ**があるように思えます。将来、それぞれがどのようなフィールドで活躍しているかは想像に難くありませんし、大学受験においてさえも後者が前者に勝ることはあり得ないというのはみなさんもよくわかることだと思います。大学受験を１年後に控えた今だからこそもう一度考えてみてほしいことです。

★高いハードル

期末考査が終わりました。英語表現、コミュニケーション英語ともに、やや高めのハードルを設けたつもりです。（自分の立ち位置を“厳しめに”把握し、今後の英語学習の量・質をさらに改善してもらいたいという意図です。ちょっと意地の悪い問題も含まれていました。ごめんなさいね。“愛”ゆえの鞭です。）よって、今回の考査ができなかったからといって必要以上に落ち込む必要はありません。しかし、今回の考査に向けた授業中や家庭での取り組みを振り返り、学年の集大成である学年末考査を、十分な準備をして挑んでもらいたいと思っています。

○英語表現Ⅱ

特に後半部分の和文英訳、英文和訳に関してうまくいかなかった人が多くいたように思われます。授業中や家庭学習において、**細部にまでこだわる丁寧さ**があったかどうか振り返りましょう。また、**冷静に自分の解答を見つめなおす客観性**があったかどうかについても振り返ってもらいたいものです。落ち着いて自分の解答を見直せば減点を回避できた設問も数多く見られましたよ。さらに、途中で解答を終えている問題もありました。**自分の手持ちの表現を駆使して最後まで書ききる粘り**も必要な要素です。学年末考査でも同様の出題を考えています。学習法の改善を期待します。

○コミュニケーション英語Ⅱ

特に、Q skills に関して、考査に向けた学習がうまくいかなかった人が多くいたように思われます。学年末考査においても以下の観点で出題します。授業中や家庭での学習も以下の観点を意識して取り組みましょう。

①英文（Q passage）の段落ごとの要旨が理解できているか。
②Q passage 中の単語を理解しているか。
③Online practice に取り組んでいるか。
④ディスカッションに参加し、自分の意見を表現できるか。
⑤同じテーマの初見の文を読んで要旨を理解できるか。

また、時間が足らなくて、最後の問題まで解くことができなかったという人も多くいました。今回は、あえて問題数も多く（しかも思考を要する問題も）出題しました。君たちにここで考えてもらいたいことは、**読むスピード、問題を解くスピードを授業や家庭学習において意識してもらいたい**ということです。１年後に迫っているセンター試験や二次試験において“処理スピード”というのは大きな要素です。素早く英語を処理する際に何が必要なのかは、人それぞれでしょうが個々人の課題に日ごろから意識を持って取り組むことが肝要です。自分の取り組むべき課題がわからない人はいつでも相談に乗りますよ。

【資料3】GTEC成績推移

		2016年度 高校3年生の成績推移（高1夏～高2冬）										昨年度 高３生	
年度		2014		2014				2015		2015		2015	
学年		高校1年生		高校1年生				高校2年生		高校2年生		高校3年生	
回・月		26回B・7月		27回B・12月		27回A・12月		28回A・7月		29回A・12月		28回A・7月	
受検人数		279		179		96		275		269		309	
スコア平均		484.4		479.2		547.7		529.1		560.4		532.7	
グレード平均		4		4		5		5		5		5	
満点		660		660		810		810		810		810	
グレード	スコア	単純	累積	単純	累積	単純	累積	単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	800												
	780											1	1
	760					1	1	1	1	3	3	1	2
	740						1		1	4	7	1	3
	720						1	4	5	6	13		3
6	700					1	2	4	9	4	17	2	5
	680					2	4	2	11	4	21	3	8
	660						4	5	16	8	29	4	12
	640	1	1			2	6	3	19	8	37	10	22
	620	9	10	1	1	3	9	9	28	14	51	13	35
5	600	8	18	4	5	8	17	12	40	18	69	14	49
	580	5	23	4	9	8	25	13	53	24	93	26	75
	560	18	41	6	15	9	34	20	73	28	121	29	104
	540	13	54	14	29	11	45	24	97	35	156	33	137
	520	20	74	19	48	16	61	46	143	36	192	38	175
4	500	38	112	20	68	18	79	40	183	31	223	35	210
	480	28	140	17	85	10	89	40	223	11	234	32	242
	460	38	178	26	111	6	95	16	239	13	247	20	262
	440	31	209	17	128		95	16	255	12	259	16	278
3	420	23	232	22	150	1	96	14	269	6	265	17	295
	400	20	252	15	165		96	1	270	3	268	6	301
	380	14	266	4	169		96	2	272	1	269	2	303
2	360	8	274	6	175		96	1	273		269	3	306
	340	3	277	3	178		96	2	275		269	2	308
	320	2	279		178		96		275		269	1	309
	300		279	1	179		96		275		269		309